

精密工学会賞 第6回 (2010年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 清野 慧 氏

清野慧氏は長く精密計測の研究に従事し、測定基準の高精度化という計測の根幹にかかわる重要なテーマに挑戦し続け、世界に先駆けて知的計測という新しい研究領域を切り開いてきた。その研究成果は学会と産業界で高く評価されている。ソフトウェアデータムと呼ばれる、計算によって創り出す測定基準の研究を行い、超精密の進展に不可欠な技術を提供し、平成9年精密工学会高城賞を受賞した。また、スキッド式光触針の開発、幾何学量センサのその場自律校正法の研究に対して、それぞれ平成6年と平成10年精密工学会賞（現論文賞）を受賞した。角度情報を利用する多自由度エンコーダの関連研究に対して、平成12年、平成16年精密工学会賞（現論文賞）などを受賞した。さらに、知的精密計測技術を加工現場に技術移転し、インプロセス精密計測、機上精密計測ひいては精密加工の発展に大きく貢献してきた。固定観念にとらわれずに常に新しい課題にチャレンジし、ユニークで斬新なアイデアを創出し続ける積極的な研究姿勢は若手研究者に大きな影響を与えてきた。

また、清野慧氏は精密工学会副会長、精密工学会フェロー、精密工学会産学協同研究協力分科会主査などを歴任し、精密工学会の発展にも大きな役割を果たしてきた。東北大学定年退職後は、精密工業の製造現場において技術指導を行っている。

以上のように、同氏の精密計測分野に対する工学・工業的な貢献はきわめて大きい。

1967年 京都大学工学部精密工学科卒業

1972年 同大学大学院博士課程期間満了退学

1972年 東北大学工学部助手

1993年 同大学教授

2007年 東北大学名誉教授

精密工学会フェロー、工学博士